



実行委員長のあいさつ

濱田 彩香（三国中卒業）



本日は、私たちのために、このような素晴らしい式典を開催していただき、誠にありがとうございます。今日、この場にいる仲間たちは無事に「二十歳のつどい」を迎えることができました。

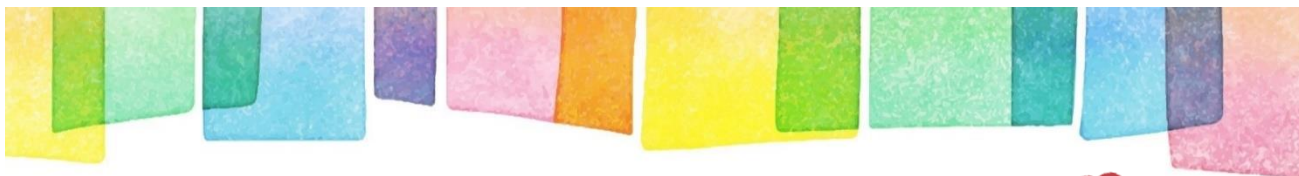
突然ですが、みなさんはなぜこの式典を開催すると思いますか？ 二十歳のつどいを迎えた今日、小中学生時代を共に過ごした仲間と久しぶりに再会し、当時の思い出を振り返りながら、懐かしさに思いを馳せていることと思います。五年前、仲間や先生と共に進路実現に向けて勉学に励んでいた頃、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、一斉休校となりました。突然の休校に驚きを隠せなかったことを今でも覚えている方が多いのではないのでしょうか。卒業式の練習も少ししか行うことができず、式も短縮して行われました。現在は5類感染症になり、制限も緩和されコロナ禍前の生活に戻りつつありますが、生活形態や意識には大きな変化があり、日常がどれだけ幸せであったかを知ることができました。オンラインを活用したディスカッションやリモート授業が増加し、人と人が対面してコミュニケーションをとる機会が少なくなっていました。今、二十年間を振り返って、二十歳のつどいを開催する理由は三つあると思います。



一つ目は「周りへの感謝の気持ちを忘れない」ことです。私が中学生の時に部活動で高校生と練習させて頂く機会がありました。その際に、高校の先生の会話の中に「当たり前の反対は感謝である」という言葉がありました。私はこの言葉を今でも大切にしています。当たり前だと思ふことでも当たり前に行えることへの感謝の気持ちを忘れず、生活していきたいと思ひます。

二つ目は「出会いを大切にする」ことです。みなさんは中島みゆきさんの「糸」という歌をご存知ですか。この中には「逢うべき糸に出逢えることを人は仕合せと呼びます」という歌詞があります。この「しあわせ」は「幸福」という意味として捉えることもできる一方、「めぐりあうこと」としての意味も持ちます。今まで二十年間を振り返ると沢山の出会いがありました。これらの出会い一つひとつが「奇跡」であり、今の私を作っていると感ひます。これからも沢山の出会いに感謝し、多くの方々との関わりを大切にしていきたいです。





三つ目は「諦めない心を持つ」ことです。みなさんは今、夢や希望、そして不安を抱え、この場に
いると思います。すでに就職している人、学業に励んでいる人などと立場は様々ですが、それぞ
れの道を歩いていくことになると思います。これからの人生、楽しいことばかりではなく、いくつもの壁にぶつかったり失敗したりすると思います。しかし、思い通りにいかななくても「諦めない心」を
大切にしていきたいです。時間がかかっても、途中で休憩しても、家族や友人など周りにいる人
を味方にして、何度も立ち向かい、夢や目標に向かって私も精一杯努力していきたいです。

最後になりますが、二十歳のつどいの開催にお力添え頂きました市の職員の皆様、並びに関
係者の皆様、その他開催に携わってくださったすべての皆様に心より御礼申し上げます。誠にあ
りがとうございました。これまで、沢山の愛情を注ぎ、いつもそばで支え、大切に育ててくれた家
族、熱心に寄り添いご指導頂いた先生方、あたたかく見守ってくださった地域の方々など多くの
方々に支えられて、私たちは、今日、大人としての門出の日を迎えることができました。二十歳と
いう人生の大きな節目の日を胸に刻み、今まで支えてくださった皆様への感謝の気持ちを忘れ
ず、成人として自分の行動に責任を持ち、社会に貢献できるよう努めていきたいと思っています。
これをもちまして実行委員会代表の挨拶とさせていただきます。

